

役職員の科学技術コミュニケーション能力を強化するため、サイエンスコミュニケーターの育成を実施した。船舶を利用した航海で周辺水族館の職員と交流を行い、科学の伝達技術の向上に努めた。広報課員等による一般・子供向けイベントを29、講演等を16実施し、科学技術コミュニケーション力の強化に向けた実践的な経験を積んだ。

(3) 成果の情報発信

第3期中期計画期間における論文発表数の目標値は、第2期中期計画に引き続き、年間平均960報以上と定めた。これは第2期中期計画初年度である平成21年度当初の研究者/技術者数と第3期中期計画策定時の平成25年度末の研究者/技術者数が同数程度であることから策定された数値である。平成27年度の論文発表数は819件だった。これに対する査読付論文の割合は81%であり、中期目標に定める目標値の7割を達成している。また、関連分野における投稿論文の平均被引用数は6.59であり、平成26年度実績6.37を維持している。

学会発表件数は口頭発表1,443件、ポスター発表667件で合計2,110件となった。

また、第5期科学技術基本計画（平成28年1月22日）の策定を受け、機構においても研究成果分析ツールを用い、客観的に高被引用度論文割合を算出する試みを実施した。平成27年度末時点において目標値である“TOP10%論文の割合を10%以上”を超える12.25%、TOP1%論文の割合は国内の主要な研究機関において第3位であり、質の高い論文を発信していることが示唆された。

研究開発成果の情報発信として、研究業績データベース（JDB）に登録されている52,736件（平成28年4月現在）のデータをもとに研究者/技術者毎に成果を外部公開する「JAMSTEC研究者総覧」を平成28年2月に運用開始した。平成28年4月現在439名が外部公開を行っている。

研究開発成果の情報発信としては、シンポジウムや研究報告会及びセミナー等を計55件主催または共催した。中でも最大規模である平成27年度研究報告会「JAMSTEC2016」では主に民間企業、大学関係者等から439名の出席があった。

機構独自の査読付き論文誌「JAMSTEC Report of Research and Development」（以下、JAMSTEC-R）は第21巻（掲載3編、25ページ）及び第22巻（掲載4編、51ページ）を発刊した。同時にJAMSTEC文書カタログにてPDF版を公開するとともに、冊子体は国内206機関、海外22機関に送付した。また本誌については、日本地球惑星科学連合2015年大会（JpGU2015）、AGU Fall Meeting、JAMSTEC2016、ブルーアース2016等では認知度向上と投稿募集のため、ポスター掲示等の広報活動を行った。

査読付き論文誌に刷新した第8巻以降、平成23年度より科学技術振興機構（JST）提供のシステムJ-STAGEでも公開し、平成27年度末までに117編が掲載されている。平成24年度からはシステムのバージョンアップに対応し、可視性の高いHTML版も公開している。平成24年度アクセス数（PDFダウンロード数含む）は1,564、平成25年度は3,838、平成26年度は5,379、平成27年度は10,093（前年比187%）である。